

出資団体の概要(出資団体経営評価・診断表 様式①)

【共通】

直近の決算日: 令和 5年 3月 31日

1. 団体の概要			
団体名	(公財)長崎ミュージアム振興財団	設立目的、経緯及び根拠法	
設立年月日	平成16年1月17日	【設立目的】博物館及び博物館相当施設(以下、「博物館等」という。)の管理運営、展覧会事業及び博物館資料等に関する調査研究等を推進することにより、長崎で育まれた文化芸術を継承し、発展させるとともに、独創性のある新たな文化芸術の創造を促進し、もって魅力と活力に満ちた地域づくりに寄与することを目的とする。	
所在地等	〒 850-0862	【経緯】	
	長崎市出島町2番1号	・平成16年4月1日 長崎県美術館指定管理者指定	
	Tel (095)833-2110	・平成21年4月1日 長崎県美術館指定管理者指定(2期目)	
	Fax (095)833-2115	・平成27年4月1日 長崎県美術館指定管理者指定(3期目)	
	E-Mail info@nagasaki-museum.jp	・令和3年4月1日 長崎県美術館指定管理者指定(4期目)	
県所管課	文化観光国際部 文化振興・世界遺産課	【根拠法】	
定款等に定める事業	(公益目的事業) ①博物館等における文化芸術の振興のための事業 ②博物館等における文化芸術の調査研究並びに保管及び修復のための事業 ③博物館等における文化芸術活動の生涯学習支援及び教育普及のための事業 ④前1号から3号の事業を行うための博物館等の管理運営 ⑤その他この法人の目的を達成するために必要な事業 (収益目的事業) ①ショップ及びカフェの運営 ②公益目的事業以外の施設の貸与等の事業 ③その他公益目的事業の目的を達成するために必要な事業		
資本金・基本金等の額(千円)	主な出資者	出資額(千円)	比率(%)
	長崎県	7,500	100.00
			0.00
			0.00
			0.00
	その他		0.00
	総額	7,500	100.00
ホームページURL	https://www.nagasaki-museum.jp		

2. 組織・人員の状況(3月31日現在)												
役員(名)	区分	R2	R3	R4	プロパー	派遣県職員	兼務県職員	県OB	他自治体	民間	その他	
	常勤	1	2	2	2							
	非常勤	7	6	6							6	
	合計	8	8	8	2	0	0	0	0	0	6	
職員(名)	R2	R3	R4	正規職員		派遣県職員	兼務県職員	非正規職員		他自治体	民間	その他
				うち県OB				うち県OB				
	23	24	26	15		2		5			2	2
1人当たり人件費(年度推移)		R2		R3		R4		平均年齢	賞与月数			
常勤役員報酬年額(千円)		*		*		*		* 歳				
正規職員平均給料月額(千円)		255		259		244		45 歳	4 月			
1人当たり人件費(R4、年代別)		20代以下		30代		40代		50代		60代以上		
正規職員平均給料月額(千円)		*		205		234		275		*		
各年代別正規職員数(名)		1		4		4		5		1		
県からの常勤又は非常勤役員	県の役職				団体での役職				区分			
上記役員以外の顧問等												
県派遣又は兼務職員	係長(学芸員)				事業企画グループ 学芸専門監				派遣			
	指導主事				事業企画グループ サブリーダー				派遣			

出資団体の概要(出資団体経営評価・診断表 様式①)

【共通】

2. 組織・人員の状況(3月31日現在)(続き)

組織図	
評議員会	10名
理事会	6名
理事長	1名
常務理事	1名
理事	4名
	名
監事	2名
館長	1名(再掲)
事務局	25名
事務局長	1名(再掲)
総括マネージャー	1名
サブマネージャー	1名
経営企画グループ	12名
事業企画グループ	10名

3. 県財政負担の状況(千円)

〈当年度受入額〉		〈当年度末残高〉	
補助金		貸付金残高	
負担金	370,768	損失補償・債務保証残高	
委託料			
貸付金			
損失補償・債務保証額			
出資金			

4. 県の政策との関連性

1 政策目標										
■特色ある文化資源・スポーツによる地域活性化										
県内のどこにいても音楽や美術などの良質な芸術に触れられる機会の提供に取り組む										
2 県との役割分担										
<table border="1"> <tr> <th>県の役割</th> <th>団体の役割</th> </tr> <tr> <td>長崎県美術館の設立目的を達成するよう、運営の指導監督を行うとともに、運営に必要な負担金の支弁やその支出状況の検査及び施設の(大規模)修繕等を行う。</td> <td>美術資料の保存・修復、展覧会の企画・運営、生涯学習・教育普及事業の実施により、設置目的である地域の活性化及び芸術文化活動の拠点として、優れた美術作品の鑑賞及び学習の機会を提供するとともに、創作活動及び作品発表等の支援を通じて、生涯学習に対応した文化的環境の整備を図る。</td> </tr> <tr> <th>団体に委ねる理由</th> <th>説明</th> </tr> <tr> <td>○ 県が直接実施するよりも効果的・効率的に事業実施可能</td> <td rowspan="3">指定管理者が行うことにより、スピード感のある運営が可能となり、県民ニーズの的確な把握から、それらの運営方針への迅速な反映が可能となる。 また、民間独自の情報ネットワークやノウハウにより、マスコミや民間企業とタイアップした大型企画展の開催が可能となる。</td> </tr> <tr> <td>県が直接実施することが困難</td> </tr> <tr> <td>その他</td> </tr> </table>	県の役割	団体の役割	長崎県美術館の設立目的を達成するよう、運営の指導監督を行うとともに、運営に必要な負担金の支弁やその支出状況の検査及び施設の(大規模)修繕等を行う。	美術資料の保存・修復、展覧会の企画・運営、生涯学習・教育普及事業の実施により、設置目的である地域の活性化及び芸術文化活動の拠点として、優れた美術作品の鑑賞及び学習の機会を提供するとともに、創作活動及び作品発表等の支援を通じて、生涯学習に対応した文化的環境の整備を図る。	団体に委ねる理由	説明	○ 県が直接実施するよりも効果的・効率的に事業実施可能	指定管理者が行うことにより、スピード感のある運営が可能となり、県民ニーズの的確な把握から、それらの運営方針への迅速な反映が可能となる。 また、民間独自の情報ネットワークやノウハウにより、マスコミや民間企業とタイアップした大型企画展の開催が可能となる。	県が直接実施することが困難	その他
県の役割	団体の役割									
長崎県美術館の設立目的を達成するよう、運営の指導監督を行うとともに、運営に必要な負担金の支弁やその支出状況の検査及び施設の(大規模)修繕等を行う。	美術資料の保存・修復、展覧会の企画・運営、生涯学習・教育普及事業の実施により、設置目的である地域の活性化及び芸術文化活動の拠点として、優れた美術作品の鑑賞及び学習の機会を提供するとともに、創作活動及び作品発表等の支援を通じて、生涯学習に対応した文化的環境の整備を図る。									
団体に委ねる理由	説明									
○ 県が直接実施するよりも効果的・効率的に事業実施可能	指定管理者が行うことにより、スピード感のある運営が可能となり、県民ニーズの的確な把握から、それらの運営方針への迅速な反映が可能となる。 また、民間独自の情報ネットワークやノウハウにより、マスコミや民間企業とタイアップした大型企画展の開催が可能となる。									
県が直接実施することが困難										
その他										

3 事業実施状況

事業名	事業概要	事業費(千円)	主な実績	事業の評価、今後の方向性
1 企画展事業	年間4本の企画展を開催	54,816	入館者数 71,900人 (館計画比 94.6%)	未だ新型コロナウイルス感染症の影響が残る中、開館時間の短縮や臨時休館を行うことなく、計画していた企画展は予定どおり開催することができた。小学校の国語の教科書に採用されている「がまくんとかえるくん」で知られる絵本作家アーノルド・ローベルの日本初の展覧会である「アーノルド・ローベル展」や、20世紀美術最大の巨匠パブロ・ピカソの初期から晩年までの版画を中心とした「ピカソ展」など、魅力あふれる企画展の開催に努めた。
2 コレクション展事業	所蔵品を中心に複数の小企画展を開催	18,317	入館者数 43,470人 (館計画比 144.9%)	収蔵作品の展示に加え、開館以来続けてきた長崎ゆかりの美術を深く掘り下げ紹介する小企画展として、長崎市出身の作家である前田 齊の没後1年の展覧会を開催したほか、教会のある風景、本県名誉県民 松尾 敏男氏と写真家・奈良原 一高の展示など、長崎ゆかりの多様な美術を紹介した。また、収蔵名品展や須磨コレクション、スペイン近現代美術などを工夫を加えながら展示し、収蔵作品の新たな魅力発信に努めた。
3 教育普及事業	遠隔地での移動美術館や子ども向けワークショップ、学校向け鑑賞事業等を開催	4,860	学校関係者利用者数 7,490人 (館計画比 107.0%)	・学校教育との連携事業であるスクールプログラムを実施した。 ・移動美術館を実施し、遠隔地の方々へ美術作品に親しむ機会を提供した。(大村市、壱岐市) ・TV会議システムやロボットを使った交流プログラムとして、遠隔地の認定こども園の児童や小学生と遠隔授業を実施した。(長崎市、壱岐市、南島原市)

出資団体の概要(出資団体経営評価・診断表 様式①)

【共通】

5. 中期経営計画等の進捗状況・事業目標の達成状況										
◎ 達成 ○ 一部達成 × 未達成 - 未実施										
No.	項目名	R4 実績	計画上の目標値					最終年度 (R8)	達成状況	
			R3	R4	R5	R6	R7			
中期 計画	総入館者数	212,367	345,000	360,000	380,000	380,000	380,000	380,000	×	
	(目標値設定の根拠・考え方)									
	① 平成17～30年度の総入館者数の平均(約398,000人)を踏まえ、設定									
	(翌年度に向けての改善事項等)									
	これまでの新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和され、徐々にコロナ禍前の状態に戻つつある中で、引き続き感染拡大防止に努めながら安全・安心な館運営を行っていくことで、良質な文化芸術に触れることのできる機会を提供していく。									
	No.	項目名	R4 実績	計画上の目標値					最終年度 (R)	達成状況
		教育普及・生涯学習支援業務	-	-	-	-	-	-	-	-
	(目標値設定の根拠・考え方)									
	② (翌年度に向けての改善事項等)									
	「まなぶ・つくる・深める」を基本テーマとし、子どもから大人まで楽しみながら美術と触れ合うことができる様々な活動の場と機会を提供し、地方都市の中核館としての役割を充実・発展させ、館が立地する長崎市近郊だけではなく、離島を含む遠隔地でも優れた芸術に触れることができる機会を提供するため、引き続き遠隔授業や移動美術館、ワークショップ、出前講座といった出張事業に取り組んでいく。									
事業 目標	No.	項目名	R2	R3	R4	備考				
	①	総入館者数(人)	(計画)	77,000	345,000	250,000	H22実績(約35万人)を基準値として、開館20周年のR7年度をピークに各年度目標達成を目指す。			
			(実績)	112,393	172,980	212,367				
	②	来場者満足度(5段階)	(計画)	4.0	4.0	4.0	アンケート5段階評価における年間平均において、4.0以上の満足度を目指す。			
			(実績)	4.4	4.4	4.3				
③	県民ギャラリー稼働率(%)	(計画)	90.0%	90.0%	90.0%	90%以上の稼働率を目指す。				
		(実績)	76.0%	69.0%	93.0%					
(県が期待する効果の実現)										
評価結果					評価理由					
十分実現している					○令和4年度は、新型コロナウイルス感染症に対し、社会経済活動を維持しながら感染拡大防止を図っていく状況下で、開館時間の短縮や臨時休館を行うことなく通常開館することができた。年間入館者数は212,367人と令和元年度比で約5割程度にとどまったものの、過去最も少ない入館者数であった令和2年度の112,393人、昨年度の172,980人を上回り、回復傾向にある。また、来館者の満足度は五段階評価で4.3となり、目標の4.0を上回ることができた。○常設展事業は、収蔵作品の展示に加え、開館以来継続してきた長崎ゆかりの美術を深く掘り下げ紹介する小企画展として、長崎市出身の作家である前田 齊の没後1年の展覧会を開催したほか、教会のある風景、本県名誉県民 松尾 敏男氏と写真家・奈良原 一高の展示など、長崎ゆかりの多様な美術を紹介した。また、収蔵名品展や須磨コレクション、スペイン近現代美術などを工夫を加えながら展示し、収蔵作品の新たな魅力発信に努めた。未だ新型コロナウイルス感染症の影響が残る中、入館者数は43,470人(館計画比144.9%)となり、昨年度の27,783人を上回り、回復傾向にある。					
○ 概ね実現しているが未実現の部分がある					○計画していた企画展は予定どおり開催することができた。小学校の国語の教科書に採用されている「がまくんとかえるくん」で知られる絵本作家アーノルド・ローベルの日本初の展覧会である「アーノルド・ローベル展」や、20世紀美術最大の巨匠バブロ・ピカソの初期から晩年までの版画を中心とした「ピカソ展」など、魅力あふれる企画展の開催に努めた。入館者数は71,900人(館計画比94.6%)となり、昨年度の82,241人を下回ったが、これは企画展の開催数が前年度と比べ1本少なかったことが大きいと考えられる。					
実現できていない					○未だ新型コロナウイルス感染症の影響が残る中、県民ギャラリーにおいては利用キャンセルもなく、全ての展覧会を開催することができた。県民ギャラリーの稼働率は93%と目標の90%を上回り、県民の文化活動の場として広く活用されている。○経営面では、引き続き経費削減に取り組む中で、燃料費高騰に伴い光熱費が大きく増加したため、県から光熱費高騰に伴う支援を行ったほか、新型コロナウイルス感染症の影響による雇用調整助成金の助成制度や国の文化芸術に係る補助金も併せて活用した結果、5,599千円の黒字計上となった。					
(計画達成状況の判定)										
判定項目		評価基準						点数		
①	中期経営計画の策定	[2点]中期経営計画(計画期間3年以上)を策定している						2		
②	中期経営計画の目標達成	[1点]目標を1項目達成			[2点]2項目以上達成			-		
③	事業目標の達成	[1点]事業目標を1項目達成			[2点]2項目以上達成			2		
④	県が期待する効果の実現	[1点]効果を概ね実現している			[2点]十分実現している			1		
合計							5			

出資団体の概要(出資団体経営評価・診断表 様式①)

【公益法人会計基準適用法人用】

直近の決算日: 令和 5年 3月 31日

6. 財務の状況 (単位:千円、%)

項 目	R2		R3		R4																										
	金額	対前年度比	金額	対前年度比	金額	対前年度比																									
【貸借対照表】																															
流動資産	88,240	120.61	70,176	79.53	100,219	142.81																									
うち金銭債権額	76,258	125.88	58,992	77.36	90,374	153.20																									
固定資産	28,483	121.13	38,298	134.46	46,711	121.97																									
基本財産	7,500	100.00	7,500	100.00	7,500	100.00																									
特定資産	20,983	131.02	30,798	146.78	39,211	127.32																									
その他固定資産	0	-	0	-	0	-																									
資産合計(A)	116,723	120.74	108,474	92.93	146,930	135.45																									
流動負債	80,615	108.81	56,550	70.15	86,994	153.84																									
うち短期借入金	0	0.00	10,000	-	10,000	100.00																									
固定負債	14,983	93.56	14,798	98.77	17,211	116.31																									
うち長期借入金	0	-	0	-	0	-																									
うち退職給付引当金	14,983	93.56	14,798	98.77	17,211	116.31																									
負債合計	95,598	106.10	71,348	74.63	104,205	146.05																									
指定正味財産	7,500	100.00	7,500	100.00	7,500	100.00																									
一般正味財産	13,624	-1,466.52	29,626	217.45	35,225	118.90																									
正味財産合計(B)	21,124	321.47	37,126	175.75	42,725	115.08																									
団体債務保証額	0	-	0	-	0	-																									
【正味財産増減計算書】																															
経常収益(C)	451,894	62.77	475,543	105.23	508,892	107.01																									
うち受託事業収入	0	-	0	-	0	-																									
うち補助金収入	0	0.00	2,942	-	4,148	140.99																									
うち基本財産等運用益収入	3	300.00	1	33.33	1	100.00																									
うち自己収入(D)	93,522	25.75	114,230	122.14	133,975	117.29																									
うち県財政支出額(E)	358,369	100.61	358,370	100.00	370,768	103.46																									
経常費用	436,980	61.00	458,850	105.00	502,554	109.52																									
事業費	426,700	60.44	448,756	105.17	490,657	109.34																									
うち人件費(F)	170,172	92.38	170,997	100.48	173,848	101.67																									
管理費(G)	10,093	99.02	9,971	98.79	11,818	118.52																									
うち人件費(H)	7,273	94.81	7,420	102.02	8,881	119.69																									
当期経常増減額(I)	14,914	410.85	16,693	111.93	6,338	37.97																									
経常外損益	-361	508.45	-692	191.69	-739	106.79																									
当期一般正味財産増減額(J)	14,553	408.91	16,001	109.95	5,599	34.99																									
当期指定正味財産増減額(K)	0	-	0	-	0	-																									
(会計方針の変更による影響額)	0	-	0	-	0	-																									
【収支計算書等】																															
当期収入	451,894	62.77	475,543	105.23	508,892	107.01																									
当期支出	436,980	61.00	458,850	105.00	502,554	109.52																									
当期収支差額(L)	14,914	410.85	16,693	111.93	6,338	37.97																									
次期繰越収支差額(M)	21,124	321.47	37,125	175.75	42,725	115.08																									
【会計単位別】																															
	経常収益	経常費用	当期経常損益	当期収入	当期支出	当期収支差額																									
一般会計	11,818	11,818	0	11,818	11,818	0																									
特別会計	497,074	490,736	6,338	497,074	490,736	6,338																									
合 計	508,892	502,554	6,338	508,892	502,554	6,338																									
各財務数値の増減理由及び各種引当金の設定状況等																															
<p>○令和4年度は未だ新型コロナウイルス感染症の影響が残る中、当期一般正味財産増減額が前年度の16,001千円から5,599千円に減となったが、これは新型コロナウイルス感染症の影響による国の助成金減のほか、燃料費高騰に伴い光熱費が大きく増加したことが大きい。</p> <p>○各種引当金の設定状況等は下記のとおり。(単位:千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>科 目</th> <th>前期末残高</th> <th>当期増加額</th> <th>当期減少額</th> <th>当期末残高</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基本財産</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td> 基本財産引当預金</td> <td>7,500</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>7,500</td> </tr> <tr> <td>特定資産</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td> 退職給付引当資産</td> <td>14,797</td> <td>2,414</td> <td>0</td> <td>17,211</td> </tr> </tbody> </table> <p>○退職給付引当金の計上基準は、期末の退職給付債務を計上している。</p>							科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	基本財産					基本財産引当預金	7,500	0	0	7,500	特定資産					退職給付引当資産	14,797	2,414	0	17,211
科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高																											
基本財産																															
基本財産引当預金	7,500	0	0	7,500																											
特定資産																															
退職給付引当資産	14,797	2,414	0	17,211																											
(財務状況の判定)																															
判定項目	R2		R3		R4		点数																								
	数値・比率	対前年度比	数値・比率	対前年度比	数値・比率	対前年度比																									
① 当期経常増減額率(I/C)	3.30	3.51	106.36	1.25	35.48	37.74	-1.0																								
② 当期一般正味財産増減額率(J/C)	3.22	3.36	104.48	1.10	32.70	34.16	-1.0																								
③ 当期指定正味財産増減額(K)	0	0		0			0.0																								
④ 正味財産比率(B/A)	18.10	34.23	189.12	29.08	84.96	160.68	-1.0																								
⑤ 次期繰越収支差額(M)	21,124	37,125	175.75	42,725	115.08	202.26	0.0																								
⑥ 県財政支出率(E/C)	79.30	75.36	95.03	72.86	96.68	91.87	0.0																								
⑦ 自己収入比率(D/C)	20.70	24.02	116.07	26.33	109.60	127.21	0.0																								
⑧ 管理費比率(G/C)	2.23	2.10	93.88	2.32	110.76	103.98	-0.5																								
合計							-3.5																								

※判定項目ごとに評価基準に基づき採点

出資団体の概要(出資団体経営評価・診断表 様式①)

【共通】

7. 経営内容及び事業活動についての総合判定			
(団体の自己評価)			
「計画達成状況」「財務状況」の合計点数	1.5	➡	総合判定 B
5点以上:A 概ね良好	-5点以上~5点未満:B 改善の余地あり	-5点未満:C 一層の努力が必要	
※事業活動・経営の努力・今後の課題及び改善事項等			
<p>○スペイン美術を標榜する美術館として、ヨーロッパの近現代美術を本格的に紹介する大型企画展や、令和6年度の長崎スタジアムシティの開業による県外からの観光客にも足を運んでもらえるような魅力的な展覧会を開催し、優れた美術作品の鑑賞機会の提供や交流人口の拡大に寄与するとともに、オンライン等も駆使し、子どもから大人まで、県内どこにいても良質な文化芸術に触れることのできる機会を提供していく。</p> <p>○建設から18年以上が経過し、施設の劣化に伴う不具合が頻発しており、維持管理費の増加が予想されるため、引き続き光熱水費や事務的経費の削減に努めるとともに、予防保全型維持管理を前提として、毎日の点検及び早期の修繕にしっかりと取り組み、建物や設備機器の長寿命化を図っていく。</p> <p>○県民ギャラリーを中心とした施設貸出事業は、県民の文化活動の場として広く活用されるよう、引き続き県民の積極的な利用推進を図っていく。</p> <p>○指定管理者の経営基盤の更なる安定化のため、引き続き運営費等の縮減に取り組むとともに積極的な広報・販促活動の実施により収入の確保に努める。ショップ事業では展覧会毎のイメージや客層に合わせた商品ラインナップの充実強化を図るとともに、SNS等を活用した積極的な情報発信を行い、来館者の購買率上昇に繋げ、カフェ事業ではコスト削減に取り組みながら来館者のニーズに合ったテイクアウト可能な食事やスイーツメニューの提供、展覧会に合わせた商品の開発を行うことで収支の安定化を目指す。</p>			
(県の評価)			
合計点数	1.5	※評価の内容、県評価での加点・減点、総合判定の理由	
		(加点・減点を行う場合は、点数及び理由を具体的に記載ください。)	
総合判定	B	<p>○生涯学習・教育普及事業では、学校との連携事業であるスクールプログラムの実施、移動美術館の開催、遠隔授業の実施、企画展に関連したワークショップの実施など、幅広い年齢層へ学習の機会を提供した。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症に対し、社会経済活動を維持しながら感染拡大防止を図っていく状況下で、年間入館者数は212,367人と令和元年度比で約5割程度にとどまったものの、過去最も少ない入館者数であった令和2年度の112,393人、昨年度の172,980人を上回り、回復傾向にある。来館者の満足度は5段階評価で4.3と目標の4.0を上回った。</p> <p>○県民ギャラリーの稼働率は93%と目標の90%を上回った。県民ギャラリー等の利用者数は106,676人と全入館者数の50.2%を占めており、県民の文化活動の場として広く活用されている。</p> <p>○経営面では、引き続き経費縮減に取り組む中、燃料費高騰に伴い光熱費が大きく増加したため、県から光熱費高騰に伴う支援を行ったほか、新型コロナウイルス感染症の影響による雇用調整助成金の助成制度や国の文化芸術に係る補助金も併せて活用した結果、年間収支は黒字を計上した。</p> <p>○公益法人で、前(々)年度が黒字であったことから、財務の状況の判定において、以下のとおり加点を行った。</p> <p>①当期計上増減額率 加点+1(-2.0 → -1.0)</p> <p>②当期一般正味財産増減額率 加点+1(-2.0 → -1.0)</p>	
(今後の県の関与の方針)			
<p>長崎県美術館の指定管理者として、令和3年4月1日から6年間、当財団を指定している。(第4期目)</p> <p>今後も引き続き適正な指定管理業務が行われるよう指導監督を行っていくとともに、指定管理者管理運営負担金の支出等、財政面の支援を行っていく。</p>			